

峰のひかり

発行人
 社会福祉法人 七峰会
 理事長 成田 梧朗
 〒036-8356
 青森県弘前市大字下白銀町21-8
 電話 (0172) 33-8861
 F A X (0172) 33-8862

グループホームでの生活

平成13年3月1日に開所した、痴呆対応型生活介護「グループホームアップル」が、9月30日で7ヶ月を迎えることとなりました。

痴呆対応型生活介護（以下、グループホーム）とは、中程度の痴呆を持つ要介護者が、家庭的な雰囲気の中で職員の支援を受けながら共同生活を送るものです。（そのような主旨から、特別養護老人ホームや老人保健施設と異なり、在宅福祉サービスの1つとして位置付けられています。）

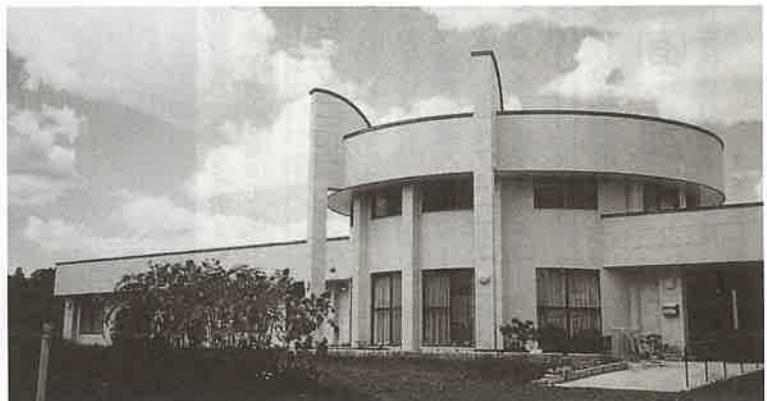
現在、男性4名、女性5名の、定員いっぱい9名の方が共同生活を営んでいます。その9名の方たちは施設で生活を送られてきた方、在宅でひとり暮らしをされていた方など様々で、入所当初は生活環境の変化に戸惑われた事と思います。そこで、6名の職員が家族の代わりとして共に生活を送り、この半年間は日常生活の安定と充実を心がけ活動を展開してきました。

グループホームの特徴としては、生活のすべてをお世話するのではなく、その方の持っている機能や能力を生かし、可能な限り自分で出来る事をしていただくような支援を行っています。家庭と同じように役割を持ちながら生活を楽しむというケアが、痴呆症状を和らげると言われていますが、ここで一例を紹介させていただきます。

その方は、痴呆症状が進み、失見当識が目立っておりました。それが、グループホームでの家庭的な雰囲気や建物がそれほど大きくなく、生活している方々も多くないという特徴が生かされ、現在では、場所や人物からの混乱が少なくなり、失見当識が徐々に解消されてきています。

グループホームは入居されている方々の話し合いが積極的であり、その意見の中から菜園作りや外出の計画、手作り食事のメニューなど様々な活動が話し合われ、生活の中に生かされています。特に菜園活動では長年の経験を生かし、鍬で土を起すところから始め、苗植えから収穫までを行いました。雑草の管理や灌水など、いろいろと手間のかかる事が多く、確かに大変な面もありましたが、収穫の喜びと、何よりも「まだまだ出来るんだ」という心の充実が、いつそうの励みとなったようでした。また、母体施設のサンアップルホームとは日常的に交流を図っており、桜祭りや敬老会等の行事には積極的に参加しております。

グループホームアップルは、一人ひとりの個性を大切にし、その方に合ったサービスの提供に精一杯努めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひ致します。



イベント活動と社会適応プログラムについて

デイサービスセンターでの

社会適応プログラム

山郷館では、在宅の身体障害者を対象に、リフト付車両による送迎・入浴・食事サービスと、機能訓練や社会適応訓練・各種余暇活動などを実施しております。

社会適応訓練の内容としては、日常生活動作訓練・パソコンなどOA機器の活用・調理実習などのプログラムに入気があります。さらにもっと内容を深めていきたいというデイサービス利用者も多く、その場合は「弘前市障害者生活支援センターでのイベント活動」をあわせて利用して頂いております。

障害者生活支援センターでの

社会適応プログラム

支援センターでは、定例行事としてパソコン教室・手話教室・料理教室を実施しており、その他に福祉機器展・介護、健康教室・テーブルマナーや交流会などを実施しております。利用される方はそれぞれサービスの利用目的を明確に持っており、内容を深めるだけでなく、より実生活に近いプロ

ラムと内容を地域の方々と交流しながら体験し、自らの目標達成に向けて頑張っております。

なお、支援センターでは、弘前市内を中心とした公共機関の活用と各種活動や関連するボランティア情報も得ることが出来ます。参加してみたいが移動手段が無くて困っているという方、いろいろな活動を通して技術を高めたい方、また、とりあえず体験してみたいという方がおりましたら、お気軽にご連絡下さい。TEL31-2400



ちっちゃな大農場！ 活躍中

旭光園には、毎日の授産作業に追われる中で、つかの間の一服を与えられる50坪ほどの「旭光園農場」があります。先人達は、ジャガイモ畑として全員で芋掘りを楽しんだり、ある時は菊やハーブ畑として花や香を楽しんできました。

今年も、自称「野菜作りの名人」がナス・キュウリ・トマト・スイカ・トウモロコシ・枝豆等を所狭しと植付けました。名人を中心に、早朝・夕食後・休日に水遣りや草取り等の手入れを一所懸命行った甲斐があり、次々と無農薬野菜が収穫され、美味しく頂いています。

旭光園では、組織化されたクラブ活動的な余暇プログラムは無く、個人で趣味を見つけ余暇を過しています。そんな中で、野菜づくりの好きな利用者・職員が自然と集まり一緒に畑仕事を楽しみ、また、直接参加できない人も各部屋の窓から作物の成長を眺め季節の変化を感じたり、畑の前に談笑したりと自然発生的にできたクラブ活動（農業クラブ？）が旭光園全体の心の潤いとなっているようです。

これからも、気負わずにみんなが楽しめる「ちっちゃな大農場」を大切にしていきたいと思えます。



▶収穫された大きく甘いスイカをみんなでおいしく頂きました。

ご注文お待ちしております！

- ・レジバック、ゴミ袋
 - ・シール・ラベル印刷
 - ・各種割り箸、ホルダーケース
- TEL 0172-57-5155
FAX 0172-57-5156

食材の総合商社

(有) 加 商

TEL 本社 弘前市末広
27-4330

ショートステイ事業 利用の状況

心身障害児(者)短期間入所事業(ショートステイ)は、在宅の知的障害児(者)を対象にしたサービスです。これまでは、宿泊を伴う利用しかできませんでしたが、平成13年4月より日中の利用ができるように改正されました。

拓光園でも巡回療育相談とともに、日中のショートステイを利用される方が多くなってきました。これは、規制緩和によってこれまでよりも使いやすくなったからではないかと思えます。

現在までのショートステイ利用は延べ183日間で、巡回療育相談の利用は11件ありました。

ショートステイは一時的に利用していただくサービスですが、使い方によっては充実した内容になると思えます。拓光園ではショートステイを利用して「自閉症児・夏の訓練」を行いました。養護学校中等部・高等部に通っている生徒さん6名が、夏休み期間中に学生ボランティアの協力を得て日帰り3日、宿泊1泊2日の5日間の日程で参加しました。レクリエーション、ドライブ、作業、工作などとても楽しい内容でした。

巡回療育相談での相談内容はいろいろですが、ショートステイを利用したいと思っている方のほとんどが利用者の

の送迎を希望しています。交通手段を持たない方、勤めの関係などで家族が送迎できなくて利用できない現実があります。家庭へ、学校へ必要なときに必要なサービスを提供できる環境がまだまだ不足している現状です。拓光園ではそのニーズにこたえるため送迎サービスも行っていきます。利用する方が安心して利用でき、家族も使いたいときに使える「使いやすい制度」としてニーズに合うようにしていきたいと思っています。



短期間入所事業 保護者負担表

区 分	保護者負担表	
	重度者(療育手帳A)	中軽度(療育手帳B)
日中利用	4時間未満	3,900円
	4時間以上8時間未満	7,700円
	8時間以上	11,600円
宿泊		22,100円

(仮称)第2八千代ホーム いよいよ着工!

生活実習寮「八千代ホーム」は、昭和56年7月に開設して以来、ちょうど20年を数えます。が、その老朽化は著しく、1日も早い増改築が待たれるところでした。その思いが実り今年9月1日、ついに着工の運びとなりました。生活実習寮とは

障害のある人たちが安心して地域生活を送れるよう、居住の場を提供し、必要な支援を行うことにより、社会的自立を促進することを目的としています。「働きながら自分で生活を組み立てたい」と思う方が、法人との自由契約により入居できるシステムです。ここでの生活体験を糧にして、さらなるステップアップ——地域での自立生活を目指します。

増改築の青写真

「(仮称)第2八千代ホーム」は、全室個室になりました。南向きの明るい洋室で、クローゼットが完備されます。プライバシーが十分守られながらも、ゆったりと談話に集えるよう、食堂を広く配しています。また、車椅子の方でも使用がスムーズにできるよう、設備はバリアフリーの形態をとっています。

「誰でもいつでも“住みたいと思う人が住めるように、受け入れ態勢を整えました。この11月30日に完成予定で

す。

今後の取り組み

先に述べましたように、ここは「生活実習寮」という位置付けがなされません。「終の住処」ではありません。いずれはここを出て、文字どおりの「地域移行」を目指すわけです。

しかしながら、これまでの私たちの経験では、新しい居住場所を見つめるには非常な困難が伴います。職場に近い場所に暮らす必要から、その範囲には自ずと限界があり、その中に住まいを求めざるを得ませんが、障害がある、というだけで理解されないことが多く、「火事を出すのではないか」「うるさく騒ぐのではないか」など、色々に疑われるのです。十分承知しているからこそ、生活実習の中でも特に厳しく伝達し、その注意力は一般の人以上に浸透していると感じます。

「障害があっても暮らしよい街」ということは、「誰にとっても暮らしよい」につながります。大部分の人は親元を離れて自立生活を送るようになるのですから、私たちの住む地域全体が、別け隔てのない、思いやりに満ちた街になるのは、共通した願いであると言えるでしょう。

社会の一員として働き、普通の大きな家に住む——。この生活実習寮で培った経験や技術を、実際に社会生活の中で役立てられる日を目指して、今後も努力して参ります。

イベント活動と社会適応プログラムについて

デイサービスセンターでの社会適応プログラム

山郷館では、在宅の身体障害者を対象に、リフト付車両による送迎・入浴・食事サービスと、機能訓練や社会適応訓練・各種余暇活動などを実施しております。

社会適応訓練の内容としては、日常生活動作訓練・パソコンなどOA機器の活用・調理実習などのプログラムに人気があります。さらにもっと内容を深めていきたいというデイサービス利用者も多く、その場合は「弘前市障害者生活支援センターでのイベント活動」をあわせて利用して頂いております。

障害者生活支援センターでの社会適応プログラム

支援センターでは、定例行事としてパソコン教室・手話教室・料理教室を実施しており、その他に福祉機器展・介護・健康教室・テーブルマナーや交流会などを実施しております。利用される方はそれぞれサービスの利用目的を明確に持っており、内容を深めるだけでなく、より実生活に近いプログ

ラムと内容を地域の方々と交流しながら体験し、自らの目標達成に向けて頑張っております。

なお、支援センターでは、弘前市内を中心とした公共機関の活用と各種活動や関連するボランティア情報も得ることが出来ます。参加してみたいが移動手段が無くて困っているという方、いろいろな活動を通し技術を高めたい方、また、とりあえず体験してみたいという方がおりましたら、お気軽にご連絡下さい。TEL 31-2400



ちっちゃな大農場！活躍中

旭光園には、毎日の授産作業に追われる中で、つかの間の一服を与えてくれる50坪ほどの「旭光園農場」があります。先人達は、ジャガイモ畑として全員で芋掘りを楽しんだり、ある時は菊やハーブ畑として花や香を楽しんできました。

今年も、自称「野菜作りの名人」がナス・キュウリ・トマト・スイカ・トウモロコシ・枝豆等を所狭しと植付けました。名人を中心に、早朝・夕食後・休日に水遣りや草取り等の手入れを一所懸命行った甲斐があり、次々と無農薬野菜が収穫され、美味しく頂いています。

旭光園では、組織化されたクラブ活動的な余暇プログラムは無く、個人で趣味を見つけ余暇を過しています。そんな中で、野菜づくりの好きな利用者・職員が自然と集まり一緒に畑仕事を楽しみ、また、直接参加できない人も各部屋の窓から作物の成長を眺め季節の変化を感じたり、畑の前に談笑したりと自然発生的にできたクラブ活動（農業クラブ？）が旭光園全体の心の潤いとなっているようです。

これからも、気負わずにみんなが楽しめる「ちっちゃな大農場」を大切にしていきたいと思えます。



▶収穫された大きく甘いスイカをみんなでおいしく頂きました。

ご注文お待ちしております！

- ・レシハック、ゴミ袋
 - ・シール・ラベル印刷
 - ・各種割り箸、ホルダーケース
- TEL 0172-57-5155
FAX 0172-57-5156

食材の総合商社

(有) 加商

TEL 本社 弘前市末広
二七-四三三〇